

令和3年度（2021年度）第2回伊丹市立総合教育センター運営協議会協議内容まとめ

日 時 令和4年（2022年）2月28日（火）
場 所 各学校等（オンライン開催）
委 員 深野 康久委員〈会長〉、小中村 政則委員、吉田 典子委員、
臼井 久美委員、米田 博一委員、櫻井 美也子委員、西本 大和委員、
馬場 一憲委員、早崎 潤委員
事務局 永嶺 香織、奥野 隆哉、戸田 征男、中田 智継、長谷 慎一、濱野 洋介、

1 所長あいさつ

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 令和3年度の事業体系報告

・【Ⅰ研修】

ライフステージ研修では、事例研修を多く取り入れ、受講者が能動的に取り組む実践的な研修を実施した。専門研修、教育課題対応研修、啓発研修においては、国の動向や学力向上、授業改善の視点に立ったICTの活用など、伊丹の課題に応じた研修を実施した。

・【Ⅱ調査研究】

3つの分野に関する調査研究に取り組んだ。伊丹市の課題を改めて把握するとともに、それぞれの調査において具体的な方策を検討し、支援してきた。

・【Ⅲ教育の情報化】

今年度は、一人一台端末の本格的な活用を進める一年だった。進めていく中で、課題も見えてきた。その見えてきた課題を来年度にいかしていかなければならないと考えている。整備については、校内LAN、一人一台端末、端末活用のための様々なツール、オンラインに必要な機器等、補正予算を組みながら整備し、ハード面については、一定の整備を進めることができたと考えている。

・【Ⅳ教育相談】

相談内容が多様化しており、複雑な問題も増えている。相談員の資質向上も図っていかなければならない問題である。また、関係機関との連携も必要になっている状況である。

・【Ⅴ不登校児童生徒の学校復帰支援】

通所型の教育支援センターやまびこの運営、家庭訪問型のメンタルフレンドの派遣で、不登校や自宅に閉じこもっている児童生徒に対する一人一人の子どもに寄り添った適切な支援に努めた。今年度、やまびこの見学者や入所希望者も増加した。

(2) 令和4年度の事業体系(案)について

事業体系は大きな変更は考えていない。それぞれの事業内容を充実させるため、令和3年度の成果と課題をまとめ、来年の事業の具体案を検討していくところである。

(3) 事業別令和3年度の成果と課題について

I 研修

「職務研修・一般研修、授業力向上(カリキュラム)支援センター」についての説明

II 調査研究

「校内研究の活性化に向けた支援のあり方、授業におけるタブレット活用研究、教育支援センターにおける効果的な支援」について説明

〈質疑①〉

令和3年度の研修でオンラインで実施したものは、だいたいどれくらいの率になっているか。対面を計画していたが、オンラインとせざるをえなくなったのはどれくらいか。

〈回答①〉

コロナの状況もあって、4月から6月の研修については、zoomを活用した研修を行った。例えば5月24日のトップリーダーグループ研修、6月11日のトップリーダー研修など、6月頃まではzoomを活用したオンラインでの研修とした。ただし、今年の夏季研修については、状況が落ち着いていたので、基本的には全て集合の形をとらせていただいた。ただし、人数が多い研修については、集合することは難しかったので、集合とオンラインを併用したものもあった。また、1月になって状況も厳しくなってきたため、現在、マイスター研修などはオンラインとなっている。パーセンテージでいうと、だいたい20パーセントくらいがzoomになっている。

III 教育の情報化について説明

〈質疑①〉

ICT活用推進教員のスキルアップについて、総合教育センターに忙しいとは思いますがご協力ご支援いただけたらと思っている。

〈回答①〉

担当者会での実践の周知や、各校を同じ水準にするという部分では、ICTの研修にもお声かけいただければ、状況、課題に応じた研修もできるかと思うので、是非お声かけいただければと思っている。

〈意見〉

学校によって状況が違くと子どもたちに影響があるので、大きなこれからの課題であると思っている。

IV 教育相談について説明

第1回の時にご指摘いただいた医療相談、医療発達相談については、学校も保護者もわかりにくいとかがあったため、医療心理相談、医療発達相談と、発達に関すること、心に関することと分ける形でお示ししたいと思っている。

V 不登校児童生徒の学校復帰支援について説明

(4) 令和4年度の重点目標について

I 研修

「職務研修・一般研修、授業力向上（カリキュラム）支援センター」についての説明

II 調査研究

「校内研究の活性化に向けた支援のあり方、授業におけるタブレット活用研究、教育支援センターにおける効果的な支援」について説明

III 教育の情報化について説明

IV 教育相談について説明

V 不登校児童生徒の学校復帰支援について説明

〈意見①〉

学校の先生の様子を見ていると、ICTに比較的明るい先生方に負担がいつているように見受けられる。全体的な底上げが出来るように研修を続けていっていただけたらと思う。

〈意見②〉

日頃より学校園や教員へのサポートを考えていただいていることに感謝申し上げます。就学前の教育から、小学校以降の教育へつなぐため、研修の内容等も考えてくださっている。これからも幼児教育も、一緒に学ばせていただきたい。

〈意見③〉

教員の資質能力の向上の資質の部分で、人間力の向上は欠かせない。その部分の視点を今後入れていただきたいと思っている。コロナのことで、生活貧困を抱えている子どもたち、その生活背景も踏まえた子どもたちへの接し方、ICTを使うにしても、脳の発達に即した使い方の配分、年齢に応じて出来ることは変わってくるので、そのあたりも踏まえた研修の機会を設定して欲しい。

〈意見④〉

相談の内容について、心の相談の内容を見ると、不登校が一番多く、家庭・子育て、心身の健康・保健がほとんどを占めている。不登校だけでなく、遅刻、朝普通に学校に来られない不登校の予備軍のような子が多くいる。家庭への働きかけをするが、なかなか改善されず、だんだん学校に来られなくなる子が多い。それに対する手立てを打ち尽くして、どうにもならないという現状がある。なかなか学校だけ、教育相談だけでは、改善が難しい。学校と連携してやっていけたらいいなと思っている。やまびこのことも、小学校はな

かなか活用は難しいが、今の不登校の状況をリサーチしていただいて、助けていただければ嬉しいなと思っている。

〈意見⑤〉

今年研究発表会があったが、事前授業から参加していただいて、様々な助言をいただいた。一緒に研究できたことを嬉しく思っている。

不登校児童が増えている。やまびこに見学に行ってみようかという子も何名かいる。ただ、そこにつなぐまでが難しい。ずっと家にこもりっきりになっている子どもへの支援に学校は苦慮している。ただ、支援センターやまびこがあるので、紹介しつつ見学につなげていきたいと思っている。

〈意見⑥〉

予算の関係もあると思うが、職員用のタブレットの配布を進めていただけると有り難い。生徒用のタブレットの使用状況を学校単位で把握できるようにしてほしい。

〈意見⑦〉

コロナの影響で教育相談も不登校も増えている中で、業務増の中、限られた人材、財源の中、全てをとというわけにはいかないが、現場の声なり、総合教育センターなり、他の教育委員会内の声を聞きながら、どこに配置をしていくか、どこを優先していくか、連携をとりながら進めていきたいと思っている。

〈意見⑧〉

総合教育センターは学校教育部が所管している。委員の皆様の様々なご意見をいただいたが、私から見ても、他市の教育委員会には負けていない、特にICTのサポートについては、非常に丁寧にやっていると自負している。ただ、まだまだなところもあるので、今日いただいたご意見を参考にしながら、できるところから進めていきたいと考えている。教育委員会は教育委員会として行政の役割がある。学校現場には学校現場で児童生徒に直接関わるという役割がある。それぞれが連携しながら、伊丹の子どもたちが健やかに育つように頑張っていきたい。総合教育センターは研修のセンターなので、教職員の資質がさらに向上するよう努力して参りたい。

4 会長あいさつ